

# Pichari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第116号

## ななえ古写真物語

VOL. 116

### 利便と歪み

大沼水力発電のはじまり

明治42年か？

東大沼地区



nanae historical  
museum collection

「市内を不夜城として我らの時間を経済させる。」かつて函館水電株式会社がかかげた電力普及へのスローガンともいわれる。現在はあたりまえのように、社会経済や私たちの暮らしをささえている電気だが、その普及は明治後半になり、ようやく広まりはじめたにすぎない。当初は火力発電が主だったが、水力発電の開発技術が進んだことから、明治39年10月、渡島水電株式会社が設立される。函館およびその近郊に電力の供給を開始した。

明治41年7月には、大沼と折戸川の落差を利用した水力発電のため、銚子口に大沼湖水の取水口を設け、大沼第一発電所を建設。8月から電力供給を開始したという。12月には社名を、函館水電株式会社に改めた。

大沼第一発電所は、煉瓦造り木造トラス屋根構造で、七飯町ではなく、折戸川沿いとなる鹿部町駒見に建てられ、その後、大正3年3月には第二発電所（鹿部町宮浜）、大正8年8月には第三発電所（鹿部町鹿部）を建設、計3箇所の発電所が設けられた。しかし、昭和40年2月に七飯町峠下に七飯発電所が完成したことにより、その役割を終えたが、煉瓦造りの発電所建物跡は、今も残されされている。

上の写真は、銚子口に設けられた取水口と、監視所を撮影したものである。写真原本のマウント部分には「函館水電株式会社 大沼発電所 銚子口水路取入口監視所」の表題が記されていること、湖水面が凍っていないことから明治42年以降に撮影されたものと推測する。

石垣の防波堤の上には、監視所らしき建物が2軒あり、その横には馬や牛を曳いた男性たち、さらに右側には取水口が一段高く築かれ、その上には軍服姿の男性がみられる。そこには、かつての銚子口の姿があり、その面影は今も若干見られる。

ところで、大沼から取水して発電したことが要因してか、明治後半から大正期にかけ、大沼では度々、湧水が生じたという。特に大正元年から2年にかけては、水位が2mも下がり、住民の飲料水が渴れたり、鱒の孵化場にも大打撃を与えるほどとなった。そのため、大沼の古老たちは、函館水電の引水過多によるものだと主張し、当時七飯村長だった木村広凱に働きかけるなど、社会問題に発展したという。その後、問題は解決するのだが、いつの時代も、ヒトの利便を迫ると、歪みが生じるのだなと感じた一枚の紹介でした。

## 9月の予定

**15日** 駒ヶ岳にて植物観察会を行いました。ゆっくりと歩を進めながら、観察をしていきます。植物の名前を覚えるのは勿論のことですが、花をみると、花びらは何枚で、どんな特徴があって、どんな場所にあるかなどの気づきを交えながら、お話しをしてくれた講師の宗像氏。参加者の皆さんからも、それぞれ見つけた植物についての質問が、多く出ました。こういった観察会の魅力は、専門家の方に、そのとき生じた疑問をその場で解決できるという点があります。答えがわかったときの参加者の顔を見て、こちらも嬉しくなる瞬間です。



**19-20日** 七飯高校2年生の3名の皆さんが当館にて、就業体験を行いました。2日間という短い期間で展示室の清掃や、野草園の木々の枝払い、学習室のおすすめの本の紹介、今回の展示の標示版づくりなど、多種多様な仕事を体験。じっくりとひとつの作業に取り組んだり、ときには、効率を重視するために、コミュニケーションを上手く図ったり、高校生の一生懸命な姿を見て、改めて「働く」という意味を感じた2日間でした。



**30日** この日は、昆虫採集・標本づくり教室を行いました。参加人数は3名。しかしながら、大人顔負けの網ふりの早さをみせるツワモノ揃いでした。フィールドでは、多種のチョウをはじめ、クワガタやカマキリ、オニヤンマなどなど、これまで開催した中で、最も多くの種類を採集。午後からは、標本作りにも挑戦です。左右対称に虫たちをひろげ固定していく。「はじめての経験」と子どもたちは言っていました。そう思えないほど、見事な手つきでした。この事業によって、こういった虫好きな子どもが増えることを願っています。



1	金
2	土
3	日
4	月
5	火
6	水 夜の博物館
7	木
8	金
9	土
10	日
11	月
12	火
13	水
14	木
15	金
16	土
17	日
18	月 敬老の日
19	火
20	水
21	木
22	金
23	土 ジュニア探検クラブ
24	日
25	月
26	火
27	水
28	木
29	金
30	土

9月の休館日はありません

### アサガオ 3

8月に入り、少し足踏み状態のアサガオですが、空に向かう葉や淡い色彩を放つ姿は、一時の安らぎを運んでくれます。



### 編集後記 ~tawagoto~

通る風に涼しさを感じるようになった。

現在ロビーで、夏の虫を観察できるようにしているのだが、クワガタムシの補充を、と考へフィールドへ。すると樹液が滴るナラの木に、ミヤマクワガタに混ざりカブトムシの姿が。興奮をおさえながら、少しずつ道南でも当たり前な光景になるのだろうか？そんなことを考えながらネットインさせた。暦の上では秋。虫たちの数が減ることにさびしさを感じる季節でもある。(やまだひさし)

# Richard

~ピチャリ~

第116号

平成29年8月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp